

# 大久保館跡

——市道草間農協線道路改良工事に伴う調査報告書——

2007年12月

中野市教育委員会

# 大久保館跡

——市道草間農協線道路改良工事に伴う調査報告書——

2007年12月

中野市教育委員会

## 刊行のことば

大久保館跡は、高丘丘陵地帯南部を占める草間丘陵のほぼ中央部に位置する遺跡であり、室町時代の居館跡と考えられています。本遺跡のある高丘丘陵は、旧石器時代から中世にかけて広い時代にわたる遺跡が多数存在し、市内でも有数の遺跡密集地となっています。

この度は、中野市建設水道部道路河川課の依頼により、市道草間農協線道路改良工事に伴う大久保館跡の発掘調査を、平成19年9月18日から11月5日まで実施しました。調査は(社)中野広域シルバー人材センターが発掘調査団を組織し、中野市教育委員会の指導のもとで進められました。本書は、その発掘調査成果をまとめた報告書であります。

今回の調査では、調査範囲が土地改良事業により搅乱と削平が行われ、限られた範囲しかなかったことなどから、館跡と思われる遺構・遺物の検出には至りませんでした。また、平成17、18年度に発掘調査が行われました隣接する茶臼峯窯跡遺跡で確認された旧石器時代の遺物の検出も期待されましたが確認には至りませんでした。しかし、柱状遺構から黒曜石製の剥片が検出され、時代は特定できませんが周辺に遺跡があったことをうかがわせる成果もありました。

最後になりましたが、発掘調査とその後に続く整理作業及び報告書の作成にあたられた調査団及び(社)中野広域シルバー人材センター事務局の皆様に心から感謝を申し上げ、本書の刊行のことばとさせていただきます。

平成19年12月

中野市教育委員会

教育長 本山 綱規

## 例　　言

- 1、本書は、市道草間農協線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2、本書に使用した地図は国土地理院発行の地形図（1:25,000、1:50,000）と中野市基本図（1:250）をもとに作成した。
- 3、本書の執筆は竹田保夫が担当した。
- 4、石器実測、トレース、写真撮影は竹田保夫が担当した。
- 5、遺構・遺物の図番号は本文・挿図・表・実測図・写真のすべてに共通する。
- 6、本遺跡の出土遺物および遺構図・写真などの記録資料は、中野市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

- 1、本書に掲載した実測図の縮尺は原則として下記の通りで、該当箇所のスケールの上に記してある。ただし地形図・調査区全体図・遺構配置図などは任意である。
  - 1) 調査区配置図及び遺構配置図 1:200
  - 2) 遺構実測図 SK 1:40
  - 3) 遺物実測図 石器 1:1

## 目　　次

|                |   |
|----------------|---|
| 序 文            |   |
| 例 言            |   |
| 凡 例            |   |
| 目 次            |   |
| 第1章　調査の概要      | 1 |
| 第1節　調査に至るまでの経過 | 1 |
| 第2節　調査の経過      | 1 |
| 第3節　調査体制と調査期間  | 2 |
| 1　発掘調査体制       | 2 |
| 2　調査期間         | 2 |
| 第2章　遺跡の環境      | 3 |
| 第1節　遺跡の位置      | 3 |
| 第2節　遺跡の地形      | 4 |
| 第3章　遺跡の地層      | 4 |
| 第4章　検出された遺構と遺物 | 4 |
| 第1節　遺　構        | 4 |
| 第2節　遺　物        | 9 |
| 第5章　ま　と　め      | 9 |

## 挿図版目次

|                      |   |
|----------------------|---|
| 第1図　遺跡の位置図           | 3 |
| 第2図　グリットの配置図及び遺構の全体図 | 5 |
| 第3図　基本層序             | 6 |
| 第4図　土壤実測図            | 7 |
| 第5図　土壤及び溝状遺構実測図      | 8 |
| 第6図　石器実測図            | 9 |

## 写真図版目次

|       |           |         |
|-------|-----------|---------|
| P L 1 | 1 表土剥ぎ    | 2 調査区全景 |
| P L 2 | 1 A調査区    | 2 B調査区  |
| P L 3 | 1 土壌2検出   | 2 土壌2完掘 |
| P L 4 | 1 トレンチ1   | 2 トレンチ2 |
| P L 5 | 1 トレンチ3   | 2 トレンチ4 |
| P L 6 | 1 IV層検出範囲 | 2 作業風景  |

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至るまでの経過

- 平成16年6月22日 埋蔵文化財の保護について調整を図るために、中野市教育委員会から各関係機関へ、平成17年度以降実施予定の公共事業等についての照会を行う。
- 平成16年8月 中野市建設部から中野市教育委員会に、市道草間農協線道路改良工事の計画について報告がある。
- 平成16年12月1日 市道草間農協線道路改良工事の予定地が大久保館跡に含まれるため、長野県教育委員会、中野市教育委員会、中野市建設部の三者で埋蔵文化財の保護について協議。遺構・遺物等が出土する可能性が高い地域であることから、発掘調査を実施することに決定。
- 平成19年7月10日 中野市と街中野広域シルバーパー人材センターの間で、平成19年度大久保館跡発掘調査の業務委託契約が締結される。

## 第2節 調査の経過

8月2～3日

調査区内の煙カンを撤去し、迂回パイプを設置する。

9月18日（火）

重機を用いて北側境界線上の低部に排水パイプ4mを2本埋設する。

調査区域の草刈を行う。

9月20日（木）

表土剥ぎを開始する。トレッセ3本を掘り、重機を用いて剥がす層を確認する。

調査区全体の耕作土（1層）下には直シルト層で、茶臼峯遺跡での3層、4層は確認できなかつた。

調査区南側に盛り土の範囲を確認する。

9月21日（金）

昨日に引き続き、重機を用いて表土剥ぎを行う。

9月25日（火）

機材搬入を行い、本調査を開始する。

遺構検出の精査を行う。

調査区南側にマンガン粒を含むシルト層を確認する。茶臼峯遺跡A地点のIV層に類似する。

9月26日（水）

遺構検出のための精査を行い、遺構内の覆土を掘り進める。一辺1mほどの方形プランはぶどう棚の柱跡の可能性がある。

9月27日（木）

遺構検出を行う。ほとんどの遺構の覆土は表土に類似する。

9月28日（金）

遺構検出を行う。

10月1日（月）

雨のため1時間で解散。

10月2日（火）

遺構検出を行う。Pit1から黒曜石が出土。

10月3日（水）

調査区南側の2層（マンガン粒を含むシルト層）を掘り下げる。

10月4日（木）

2層（マンガンを含むシルト層）を掘り下げるが礫が出土するのみである。これ以上の成果はあると思えず、中島歴民副館長との協議で作業終了を決める。

10月5日（金）

調査を全て終了。調査現場からの撤収作業を行う。

11月5日

来年予定されていた調査地域（B地区）を重機で表土剥ぎ、遺物・遺構検出を行う。南側で検出された盛土がB地区全体に確認された。

トレッセNo.4を掘り盛り土の下を確認する。盛り土は礫と泥炭の2層でプライマリーな層までは約2m。調査範囲は狭く崩落の危険性と道路工事が現面まで至らないこともあり、調査は後世に委ねるとして調査作業を終了する。

## 第2節 遺跡の地形

中野市地域は、上昇し続けている中央隆起帯と沈降をしつづける西部山地の境にあって侵食と堆積を繰り返し、複雑な地形を呈している。

高丘・長丘丘陵と並走する千曲川は穿入蛇行で現在に至ったと考えられ、先行性河川と解釈されている。それによって河岸段丘が高位より赤塩面、長丘面、草間面、原面、栗林面と形成されている。また、千曲川に沿って自然堤防や後背低地などの沖積地が発達し、両岸には長丘、奥手山、米山、高丘などの洪積丘陵が存在する。その一つに遺跡が立地する高丘丘陵がある。

高丘丘陵は茶臼峯を北端として草間裏山、日和山、城山と連なる。安定した安山岩や玢岩などの火山岩からなる東部山地と、軟弱な堆積地帯の西部山地からなり、丘陵は日本海からの側圧を受けて隆起した地形で、その稜線は脊斜軸に相当する。その脊斜軸の北端は小牧付近で千曲川東岸をとおって南端にあたる立ヶ花におよぶ。向斜の北端は田麦付近、南端は片塙をとおり草間におよぶ。また、褶曲運動は大きな稜線とともに小規模な脊向斜地形も作り、その起伏の間には小断層に沿って侵食が進み、小丘や小谷地形を作り出している。

大久保館跡は茶臼峯から派生した小丘に所在し、褶曲帯の東縁部が千曲川に向かって押し込まれる位置にある。

調査地域の削平前の地形は茶臼峯から派生した尾根状の小丘陵が調査地域のほぼ中央グリット4～5を東側から西へと横断して、北側と南側には茶臼峯から緩やかに傾斜して小谷がある。

大久保館跡は土師器片が表採されている、調査区域の中央を横断する小丘陵西側に存在していたと思われる。

## 第3章 遺跡の地層

昭和40年代、中野市による大規模な土地改良事

業が行われ、その結果、調査区全体に搅乱と削平が行われ、隣接した茶臼峯遺跡でのⅡ・Ⅲ層は確認はできなかった。削平は調査区のほぼ中央、グリットC～G-3～8におよんでいる。搅乱は調査地域の中央と南側、北側におよび、削平と搅乱、盛り土は調査面積のほぼ7割を占める。

破壊を免れた地域はグリット2から北側と南側のグリットB・D-7・8・9、東側のグリットK・L-6・7・8一部であった。そのうち、調査区南側、グリットB・D-7～9には茶臼峯遺跡（平成16・17年調査）で石器が検出された地層IV層が検出された。（第3図、写真図版PL5-2）

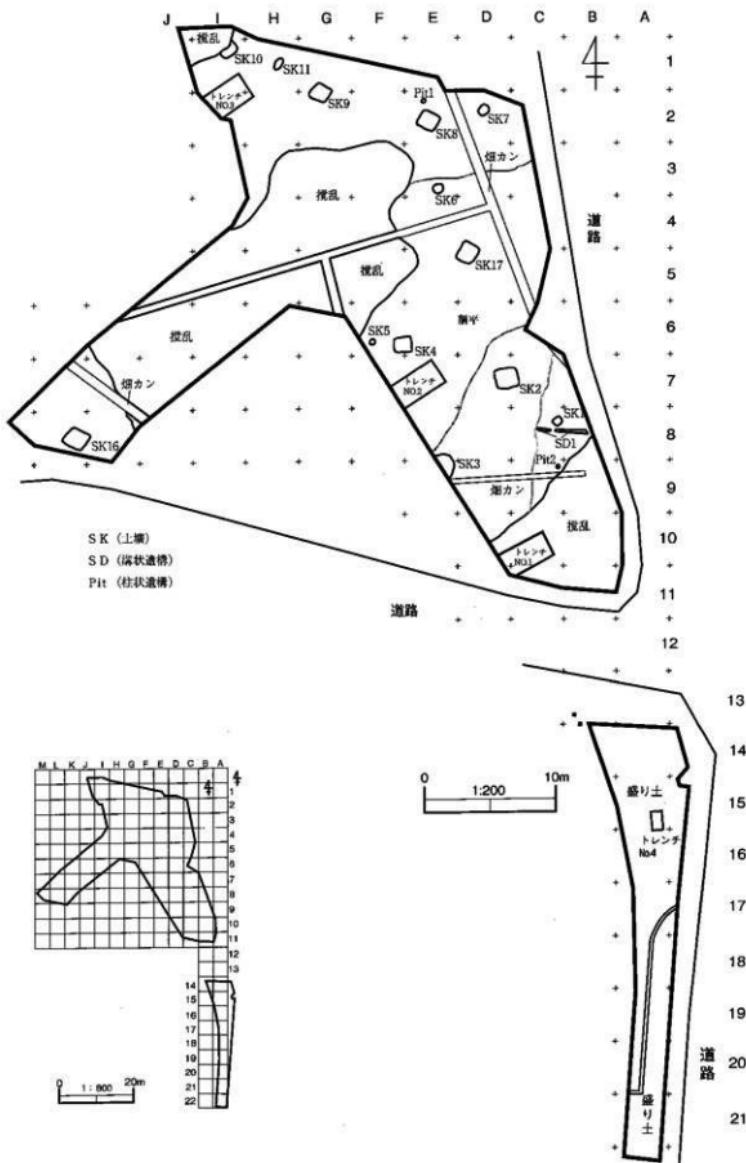
また、今年度調査範囲が早めに調査を終えたこともあり、来年度発掘調査予定のB地区（グリット13～21）の調査を行った。その結果、グリット8～9に現れていた盛り土礫がB地区全体におよんでいた。トレンチNo.4で客土下層を確認すると約60cmの礫層と約80cmの泥炭層の下にⅢ層とⅣ層も検出された。

## 第4章 検出された遺構と遺物

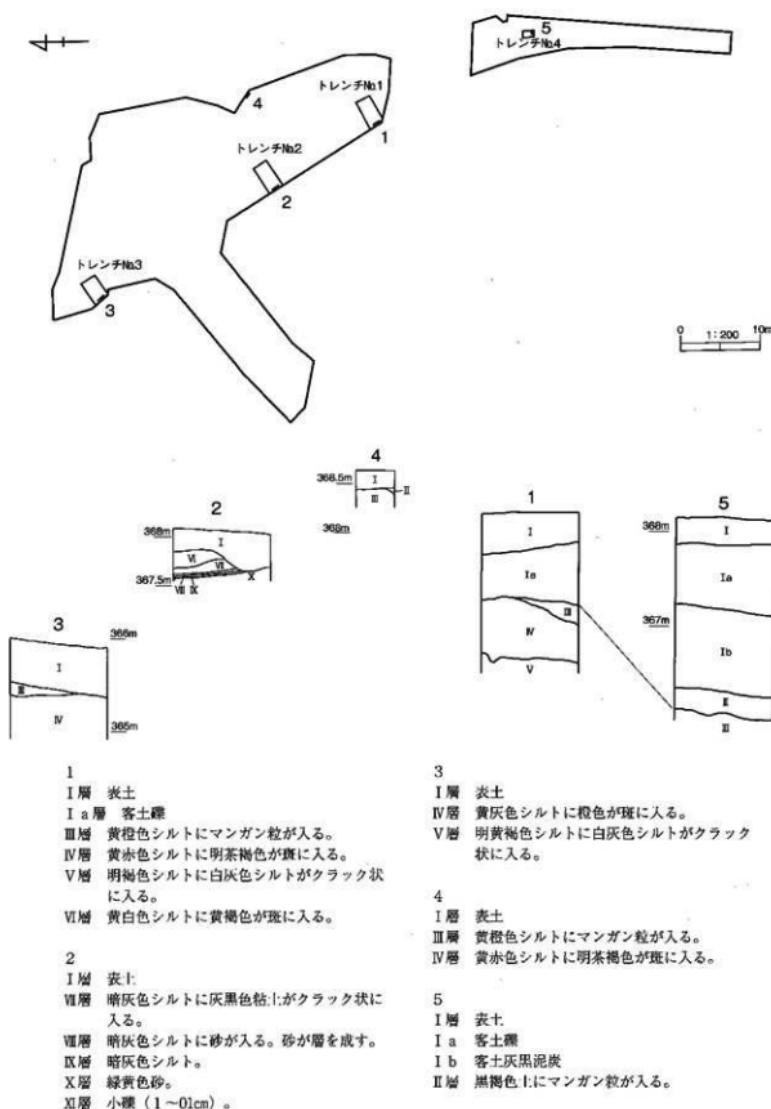
### 第1節 遺構

土壙は13基、溝状遺構は1基、柱状遺構2基が検出された。土壙13基のうち土壙2・3・4・8・9・10・16・17は1辺が1mほどの方形をなし、深さは検出面から20～30cmを測る。南西から北東に、北西から南東に格子状に約6.5mの間隔で配列している。土壙内からの遺物の検出は土壙2からの土師器片8点とチャート製の小剝片1点のみで、他の土壙からは検出されていない。土壙内の覆土は表層に類似し、比較的新しい時代と思われ、調査前の現況は果樹園でぶどう棚の柱跡の可能性もある。

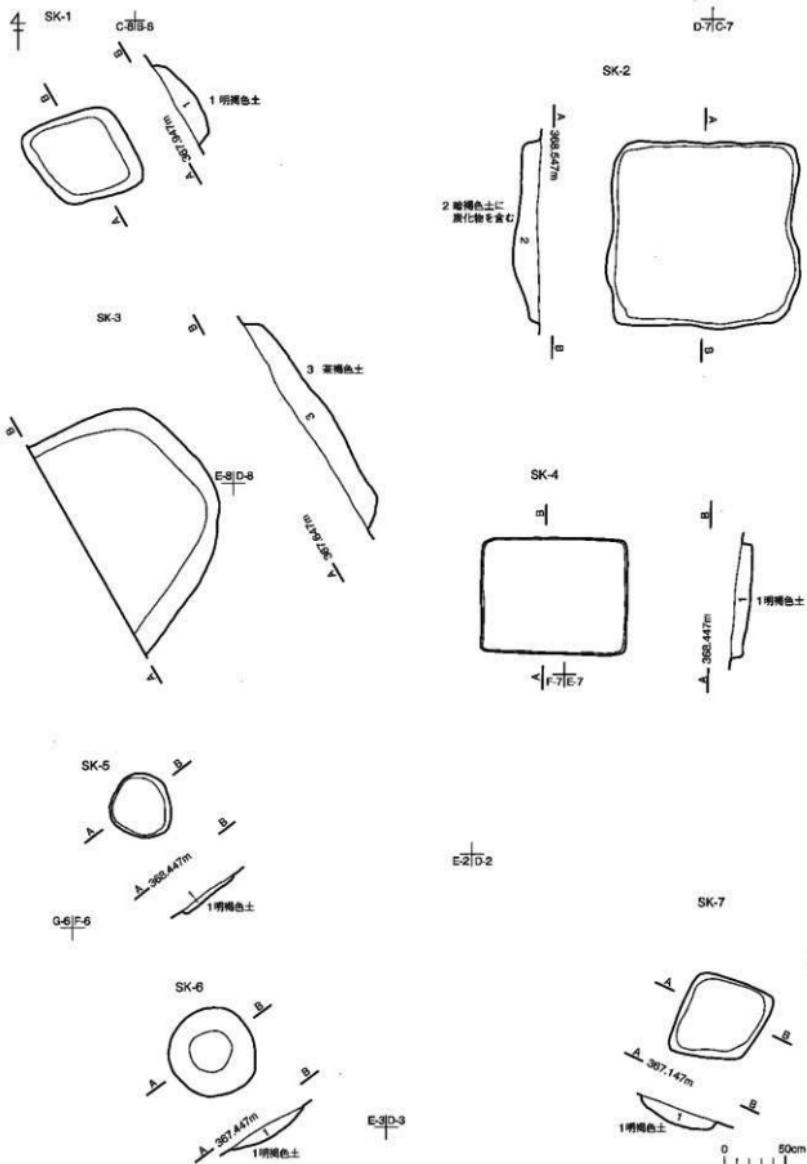
土壙5・6は円形を成し、覆土は粘土で遺物がなく時代は特定出来ない。土壙7は方形を成し、深さは検出面より約10cm。土壙11の形状は不定形で搅乱の可能性が高い。



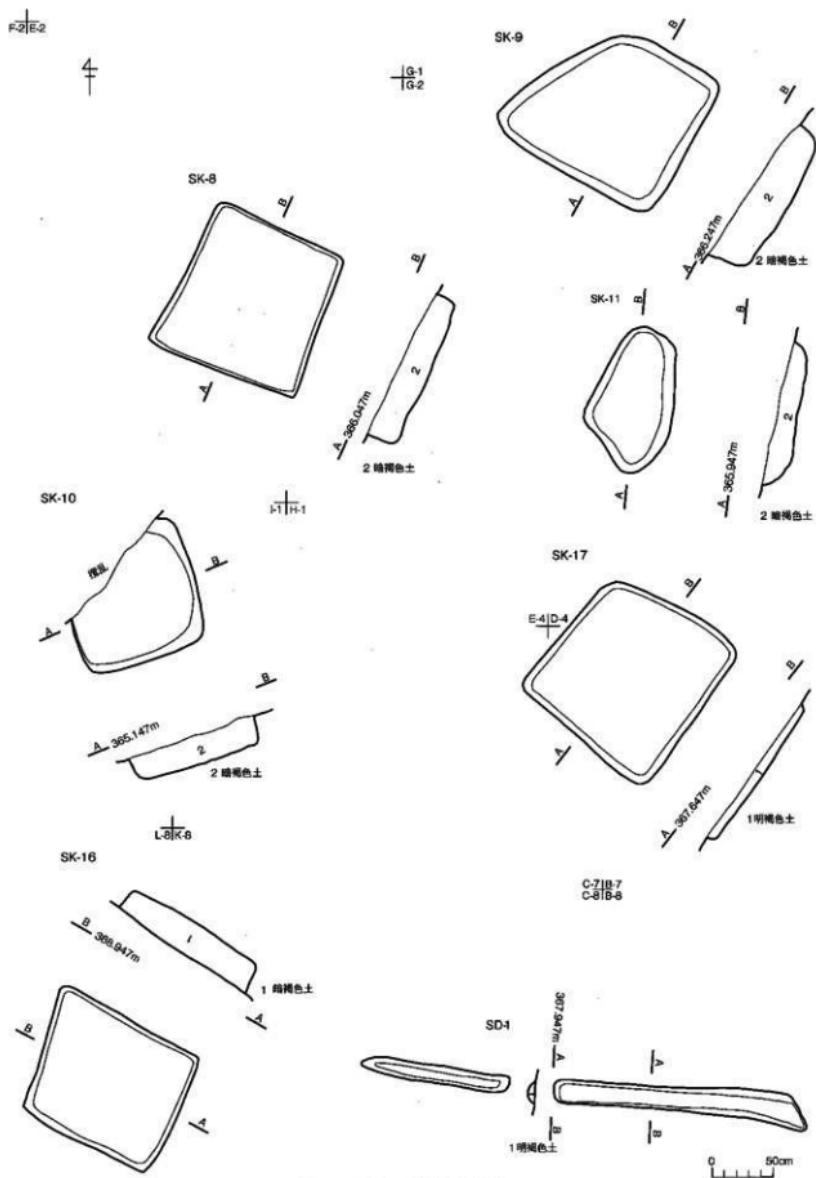
第2図 グリットの配置図及び遺構の全体図



第3図 基本層序 (地点別柱状断面)



第4図 土壌実測図



第5図 土壌及び溝状構造実測図

溝状遺構1基は幅13~26cm、深さは検出面から5cmほどで、長さは東西に途中途切れた120cmと200cmを測り調査区域外にいたる。覆土内に1点小土師器片が検出された。

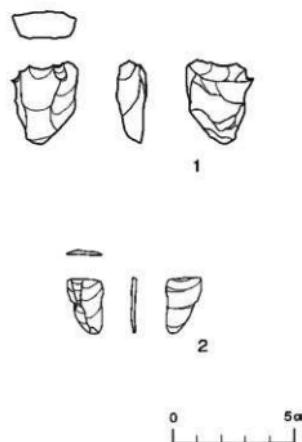
柱状遺構1は、径18cmの円形を成し、深さは検出面から約15cmである。覆土内より黒曜石（第6図2）が1点、検出された。

柱状遺構2は、径15cmの円形を成し、深さは検出面から約10cmである。

遺物は検出されていない。

## 第2節 遺 物

遺物は土壤2より、磨耗した土師器小片（最大1cm）が8点、チャート製の小剝片が1点（第6図1）と柱状遺構1から横14cm、縦約1cm、0.2cmを測る黒曜石製剝片が1点（第6図2）、グリットB-8から後線が磨耗した砾（破碎砾？）が1点検出されている。



第6図 石器実測図

## 第5章 ま と め

高丘村誌（1916年）によれば、大久保館跡は明治19年11月に井戸址より石臼、甌の角が発掘され、室町時代の居館跡と考えられている。しかし、今回の調査では前節述べたように搅乱と削平により、調査範囲は限られた部分でしかなく、それに伴う遺構・遺物は極めて少ないもので、館跡と思われる遺構・遺物の検出には至らなかった。

遺構は1辺1mの方方形土壙8基が6.5mの間隔で南西から北東に、北西から南東に格子状に検出された。土壙2より土師器小片が検出されているが、調査前の現況がぶどうの果樹園であり、覆土が表土と類似するなど、ぶどう棚の柱跡の可能性は否定できない。

調査は市道草間農協道路改良工事に伴うものとして平成15・16年の茶臼峯遺跡発掘調査に引き続き行われ、茶臼峯遺跡で確認された旧石器時代の遺物の本調査範囲まで広がりを期待して行われた。しかし、隣接する茶臼峯遺跡で確認された遺物包含層IV層はグリットC・B-7~9の一部で認められたが、遺物の検出にはいたらなかった。

ただ、黒曜石製の剝片が柱状坑から検出され、時代は特定できないが周辺に遺跡があったことをうかがわせる成果もあった。

また、同時に調査した来年度調査予定地域（B地区）はA地区南（第2図）で検出された盛り土砾がB地区全体に確認された。トレーナンチNo.4で客土の下層を確認したところ、原面までは砾層が約80cm、泥炭層が約80cmと2層であった。そのため、調査範囲の狭さもあり崩落の危険性が大きいこと、トレーナンチ内の遺構・遺物は検出できなかったこと、道路に伴う工事では2m下の原面まではおよばないと判断し、調査を断念して今後の調査にゆだねることとした。



# 写 真 図 版

P L 1

表土剥ぎ



A 調査地区



PL2

A 調査区



B 調査区



P L 3

土壤2検出



土壤2完掘



PL4

トレンチ1



トレンチ2



PL5

トレンチ3



トレンチ4



N層検出  
範囲



作業風景



## 大久保館跡発掘報告書抄録

|         |   |
|---------|---|
| ふりがな    | おおくぼやかたあと   |
| 書名      | 大久保館跡   |
| 副書名     | 市道草間農協線道路改良工事に伴う調査報告書                             |
| シリーズ名   |   |
| 編集者     | 竹田保夫  |
| 編集機関    | 中野市教育委員会  |
| 所在地     | 長野県中野市三好町1-3-19 〒383-8614 T E L (0269) 22-2111(代) |
| 遺跡所在地   | 中野市大字草間字大久保                                       |
| 遺跡県登録番号 | 9851  |
| 遺跡位置    | 緯度36°46'36" 経度138°19'32"                          |
| 調査期間    | 平成19年9月18日～11月5日                                  |
| 調査面積    | 900m <sup>2</sup>                                 |
| 調査原因    | 市道草間農協線工事に伴うもの                                    |
| 種別      | 散布地   |
| 主な時代    | 不明  |
| 主な遺構    | S K、 S D  |
| 主な遺物    | 剥片、土師器  |
| 調査機関    | 中野広域シルバー人材センター                                    |

### 大久保館跡

—市道草間農協線道路改良工事に伴う調査報告書—

発 行 平成19年12月28日

発 行 日 平成19年12月28日

編集・発行 中野市教育委員会

〒383-8614 中野市三好町1丁目3番19号

電話 0269-22-2111

印 刷 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野市柳原2133-5

電話 026-244-0235

